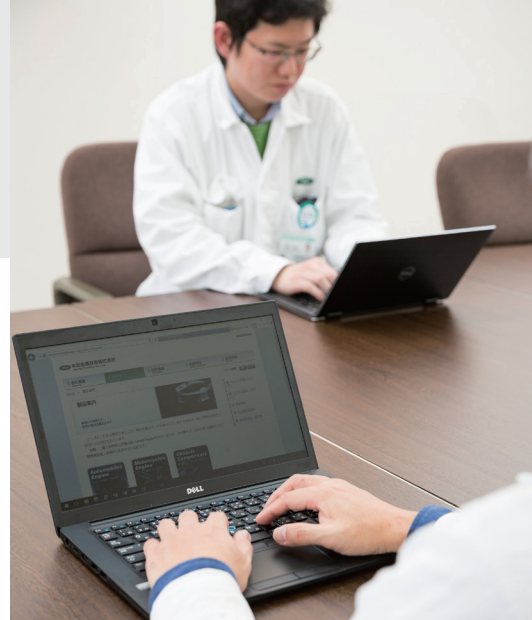




# 「Dell Latitude」を全社標準機に設定 高い処理性能・信頼性・サポート品質で PC調達・運用管理の負担を大幅低減

本田技研工業（Honda）グループの自動車部品メーカー、本田金属技術は、全社利用のPC約600台の性能・管理性向上を目的に、デルの14インチ・ノートPC「Dell Latitude 7480」を社内標準機として採用した。使い勝手、性能、サポート品質など、すべての面で最高水準にあったことが採用の決め手になったという。



**本田金属技術株式会社**  
Honda Foundry Co.,Ltd.

製造

日本

## ビジネス課題

本田金属技術の情報システム部門では、PC調達・運用管理負荷の軽減を主目的に、社内のクライアントPCを特定メーカーのノートPCで統一するという施策を展開した。そのノートPCが更改の時期を迎え、新たなノートPCを社内標準機として一から選定し、調達する必要に迫られた。

## ソリューション

- ハードウェア
  - Dell Latitude 7480
- サポート
  - Dell ProSupport

## 導入効果

- Dell Latitude 7480 を全社標準機に採用し、ハードウェア故障の頻度を劇的に低減
- 高速 CPU、大容量メモリ、SSD の採用により、標準機の処理性能を大幅アップ
- レンタル先の横河レンタ・リースとデルのサポート連携により、調達と運用管理にかかる業務負荷を大幅に低減

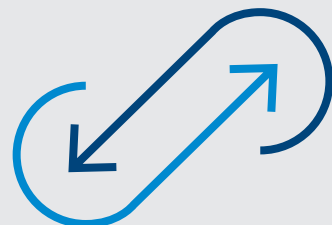
故障発生率 0%

初期導入 80 台の  
故障発生はゼロ台



劇的低減

製品の高い信頼性とサポート品質で調達・運用管理の負担を大幅低減



本田金属技術株式会社は、大手自動車メーカー・本田技研工業（Honda）グループ傘下の自動車部品メーカーである。国内に2つの生産拠点を構えるほか、北米・中国・東南アジアにも生産拠点を有し、自動車・二輪車エンジンのピストンやシリンダー・ヘッド、足回り部品、各種アルミ製品の鋳造・加工を中心に事業を展開している。製品は、Hondaを中心に国内外の大手自動車メーカー各社に供給している。

同社の国内拠点では、各業務部門合計で約600台のクライアントPCが稼働している。そのPCの新たな標準機として採用されたのが、デルの14インチ・ノートPC「Dell Latitude 7480」だ。同製品の採用により、社内PCの処理性能を大幅に向上させたほか、故障率も激減。製品の提供元である横河レンタ・リースとデルの高品質なサービス、サポートの効果もあり、PC調達・運用管理の負担が大きく低減されたという。

## PC 調達・運用管理負担の低減を目指して

本田金属技術は、Hondaの創業者・本田宗一郎氏の実弟、本田弁二郎氏が1963年に立ち上げた企業だ。エンジンの心臓部品であるピストンの製造会社として設立された。その後、高性能エンジンを支える各種部品や足回り部品など、主にアルミ軽合金の部品を鋳造・加工するメーカーとして発展を遂げ、現在は埼玉県川越市と福島県喜多方市の国内2拠点をはじめ、世界4カ国7カ所に生産拠点を有し、各国の部品メーカーに技術供与を行っている。同社の技術力は業界で高く評価され、同社の製品は、Hondaをはじめ、国内外の大手自動車・二輪車メーカー各社にも採用されている。

そんな同社にあって、社内IT全般の企画・開発、運用管理を担っているのが、管理本部 管理部 ITブロックだ。

「ITブロックは、生産管理・販売管理・原価計算などの基幹業務システムの自社開発から、サーバやネットワーク、セキュリティのインフラ構築と運用管理、各業務部門が利用するクライアントPCの運用管理・ヘルプデスクに至るまで、情報システムに関するすべての業務を担当しています」（管理本部 管理部 ITブロックブロックリーダー 中村 浩氏）。

同社では旧来、合計約600台に及ぶクライアントPCについて、事業部門が部門単位で機種を選び、それに従ってITブロックが調達・運用管理を一括して行うというスタイルをとっていた。その結果、メーカー・機種・モデルが異なるクライアントPCが社内に混在し、調達・運用管理の負担が膨らんでいた。

当時の状況について、クライアントPCの初期設定・検証などを担当するITブロック指導員の佐藤 哲司氏は次のように振り返る。

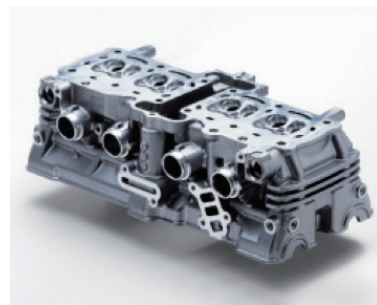
「それぞれのクライアントPCは導入台数も更改時期もばらばらで、管理方法も違います。そのため、クライアントPC導入時の初期設定だけでも、相応の労力と時間がかかっていたのです」

こうしたPC調達・運用管理の負荷とコストを軽減すべく、同社が選択したのは、社内のクライアントPCを特定メーカーのノートPCで一本化する事だ。

「当時からノートPCの性能は上がっていたので、通常業務で使う分にはノートPCで十分と考えました。また、業務部門によっては、オフィスではデスクトップPCを用い、外出先・会議中ではノートPCを使うという、いわゆる“2台持ち”のエンドユーザもいました。このような状況は、業務効率性とコストの両面で好ましいものとは言えません。そこでデスクトップPCの使用を原則的にやめてもらい、ノートPCで一本化する方針を打ち出しました。それと併せて、ノートPCのベンダを1社に絞り、調達・運用管理の負荷軽減を目指したのです」（中村氏）。



本田金属技術製ピストン  
1ミリの1000分の1、ミクロン単位の高精度な加工技術、厳しいテストをクリアした高品質ピストン。大型から小型、多種多様なサイズおよび材質のピストンを製作。



本田金属技術製シリンダー・ヘッド  
本田金属技術の鋳造技術とシエルモールドとの複合技術により、世界初のアルミ製シリンダー・ヘッドを完成させた。

「Dell Latitude の導入で、  
『Honda モデル』として選ばれている  
デル製品の品質の高さを  
肌身で実感することができました。  
これからも社内標準機としてデルの  
ノートPCを使い続けていくつもりです」

本田金属技術株式会社  
管理本部 管理部  
ITブロックブロックリーダー  
中村 浩氏

## Windows 10 への移行を機に 新標準機の選定・設定へ

ノートPCによる社内PCの一本化に乗り出すのと併せて、本田金属技術ではPCの調達方式を買い取り式からレンタル方式に切り替えた。

「買い取り式では、PCの更改時にどうしても初期費用がかさみ、IT予算の都合上、更改する台数・頻度に制約が生じる場合があります。一方で、PCは長く使い続けられれば、必ず劣化しますので、エンドユーザの業務効率に負の影響を与えますし、トラブル発生の頻度が高まり、運用管理側の負担も増えていきます。また、PCの老朽化は、セキュリティ上のリスクも高めます。そこで、必要なPC更改を必要なタイミングで行えるよう、買い取りという調達方法からレンタル方式に切り替えることにしたのです」（中村氏）。

こうした方針の下、同社は数年をかけて社内約600台のクライアントPCをノートPCへと切り替えた。ただし、このときには、PCのベンダーは1社に絞り込んだものの、特定の機種を標準機として設定したわけではなかったために、運用管理の業務負荷を大きく低減させるまでには至らな



## 「横河レンタ・リースとデルの

サービス、サポート連携で、

PC 導入時の手間が大きく軽減され、

本当に助かっています。

製品としての性能の高さにプラスした魅力が、

デルの PC にはあると感じています」

本田金属技術株式会社  
管理本部 管理部  
IT ブロック 指導員  
佐藤 哲司氏

「デルの顧客サポートは抜群で、

エンドユーザの困りごとに

親身に対応してくれます。

これにより、情報システム部門における

ヘルプデスクの業務負担も

大きく低減できると確信しています」

本田金属技術株式会社  
管理本部 管理部  
IT ブロック  
新改 勝美氏

かった。そんな中で、全社 PC の更改を急がなければならない事態に直面する。

「これまでの PC で利用していた Windows 7 のサポート終了が迫り、Windows 10 への移行を急ぐ必要が出てきたのです。また、グループウェアとオフィスアプリケーションを『Microsoft Office 365』で一新することも決めていたので、Office 365 の稼働要件を十分に満たしつつ、その快適な利用環境をエンドユーザに提供したいとも考えました。それらが契機となり、性能と使い勝手、堅牢性により優れたノート PC を全社標準の PC として採用しようという機運が高まったのです」(IT ブロック 新改 勝美氏)。

こうして IT ブロックでは、新たな標準機の選定作業に着手した。その際、標準機の要件として、「CPU は Intel Core i5 以上」「メモリは 8GB 以上」「内蔵ストレージは SSD」「本体は A4 サイズ」「視性に優れた画面解像度」といったスペックを細かく設定し、さらに「基幹業務システムのクライアントアプリケーションが問題なく稼働すること」といった条件をとりまとめた。そのうえで、これまで取引関係のあった複数ベンダーに提案を依頼、それに応じた 1 社が、横河レンタ・リースだった。

「お客様（本田金属技術）からの依頼を受け、当社としては、デルの 14 インチ・ビジネスノート PC『Dell Latitude 7480』を推奨することに決めました。この製品は、お客様が求める詳細なハードウェア要件を満たしているだけでなく、製造業の現場の利用にも耐えうる堅牢性を備え、かつ、コストパフォーマンスにも優れ、社内移動はもちろん、デスクワークにも適しているからです」(横河レンタ・リース 営業統括本部 IT 第二営業本部 第一営業部 チームリーダー 山本 和輝氏)。

## “Honda モデル” に選ばれている デル製品への信頼から Latitude を採用

横河レンタ・リースを含む複数ベンダーから提案を受け取った本田金属技術は、比較検討のすえに横河レンタ・リースの提案を採用、Dell Latitude 7480 を標準機に設定する決断を下した。

「当社がデル製品の本格導入を決めたのは今回が初です。ただし、Honda が取引各社に紹介する『Honda モデル』と呼ばれる PC の中にはデル製品が含まれています。ですから、デル製品の処理性能・信頼性が高いことは以前から知っていましたし、横河レンタ・リースから提案された Dell Latitude 7480 は、当社の要件を十分に満たしていました。加えて、初期導入のコストや手間の大幅な低減につながる魅力的なレンタル料金や充実したサービスのオファーがあったことも、採用の決め手になりました」(中村氏)。

また、Dell Latitude 7480 の場合、ポイントスティックとタッチパッドの双方を装備する「デュアル ポインティング キーボード」をオプションで選択することができるが、「これも採用理由の一つと言えます」と、佐藤氏は語り、こう続ける。

「ノート PC を新たな機種へとリプレースする際に、エンドユーザからよく寄せられる要望が、キーボードの操作感を変えないでほしいというものです。確かに、ノート PC での業務効率を考えると、使い慣れたキーボードの環境をそのまま使い続けたいと考えるのが当然です。その点、デュアル ポインティング キーボードは、当社のエンドユーザが使い慣れた環境に近く、全員が違和感なく使えると確信できました」(佐藤氏)。

## トラブル発生 “ゼロ” と 充実のサポートで業務負荷が劇的低減

こうして Dell Latitude 7480 の採用を決めた本田金属技術は、従来 PC からのリプレースを順次進めている。月 20 台ずつのペースでリプレースを





進め、2018年1月時点で80台以上のDell Latitude 7480が導入されている。社内PC全台のリプレースには至っていないものの、すでに導入効果を実感しているという。

「まず言えるのは、横河レンタ・リースがキittingを済ませたうえで、PCを納入してくれるので、PC導入時における初期設定の作業負荷が劇的に軽減されたことです。例えばこれまで、PCのドメイン設定を手作業で行う必要がありましたが、現在は、社内ネットワークに接続するだけで自動設定できます。そのため、喜多方工場のPCをリプレースする際に、川越本社にいるITブロックのメンバーがわざわざ出向いて設定を行う必要もなくなりました」(新改氏)。

Dell Latitude 7480の信頼性の高さも、ITブロックの業務負荷軽減に大きく貢献している。

「これまでに導入を済ませた80台のDell Latitude 7480は、ハードウェア故障などのトラブルを一度も発生させていません。ですから、トラブル対応のヘルプデスク業務がほぼ“ゼロ”ベースになりました。加えて、SSDの効果でソフトウェアの更新スピードもグンと上がっています。こうした効果により、PCに関する保守・運用管理の業務負荷は少なく見積もっても10～15%は削減できたと見えています。さらに、横河レンタ・リースのサポートとDell ProSupportの連携によって、万が一の故障時にもすぐに対応してくれる保障もあり、それが安心感につながっています」(中村氏)。

こうしたサポートについて、「抜群に優れています」と新改氏は語気を強め、こう説明を加える。

「これまで取引していたベンダーのサポートは、不具合が発生しても『対応が難しい』と回答されることがあり、我々の方で予備機を用意するなどト

ラブル対応の備えが必要でした。それに対して、例えば、デルのサポートは、エンドユーザの細かい困り事にも親身に対応してくれます。Dell Latitude 7480の本体にも、『何かあったら電話をしてください』というシールが貼ってあり、そこに電話をすれば、技術に精通したデルのサポート担当がエンドユーザの疑問に答えてくれます。このサービスをフルに活用することで、我々ITブロックのヘルプデスク業務が一層効率化されると確信しています」

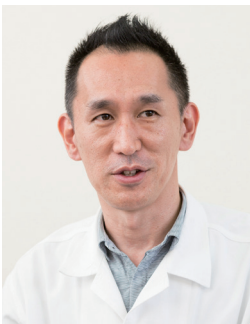
Dell Latitude 7480は、エンドユーザからの評判も上々のようだ。

「このノートPCは、起動が速く、起動後のパフォーマンスも使い勝手もよく、トラブルもなくて、画面も見やすい。ですから、エンドユーザからは『とても良い』という声が上がっており、まだリプレースが済んでいないユーザからは、『自分のPCも早くDell Latitude 7480に切り替えて欲しい』といった要望が寄せられています」(新改氏)。

## これからもクライアントPCは デル製品で

本田金属技術では今後も月20台程度のペースで既存のPC全台をDell Latitude 7480、または今後登場する後継モデルにリプレースしていく計画だ。

「Dell Latitude 7480の導入を通じて、なぜデル製品が“Hondaモデル”なのかを肌身で知ることができました。我々は技術の会社ですから、使う製品の性能・品質にも厳しい目を持っています。その観点から見ても、Dell Latitude 7480の完成度は高い。今後もクライアントPCはデル製品を使い続けていくつもりです」(中村氏)。



本田金属技術株式会社  
管理本部 管理部  
ITブロック ブロックリーダー  
中村 浩氏



本田金属技術株式会社  
管理本部 管理部  
ITブロック 指導員  
佐藤 哲司氏



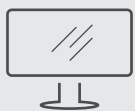
本田金属技術株式会社  
管理本部 管理部  
ITブロック  
新改 勝美氏



横河レンタ・リース株式会社  
営業統括本部  
IT 第二営業本部  
第一営業部 チームリーダ  
山本 和輝氏



ユーザ導入事例ウェブサイトにて、他にも多くの事例をご覧ください。 [www.dell.co.jp/casestudy](http://www.dell.co.jp/casestudy)



Dell Latitude の  
詳細はこちらから



専門スタッフへの  
お問い合わせ



お客様導入事例の一覧は  
こちらから



この記事を共有する

